

人間関係力 子どもの心根を感じよう



発行
長野県PTA連合会
長野市旭町109番 連合会館内
TEL 026 235 4361
発行者/今井仁志
編集者/赤羽彰

ホームページ
http://www.ptamagazine.net
E-mail
office@ptamagazine.net

家庭の中でしっかりと子どもと向き合おう

子どもに「お母さん、あのね」と話しかけられた時、子どもの話に耳を傾けていますか。

近年、コミュニケーションのとれない人が増えているようです。「コミュニケーション能力、人間関係力は、子どもたちが、社会の中で生きていくために大切な、人と人が関わっていく力です。その力をつけるための、一番身近なコミュニケーションの場が「家庭」です。子どもと向き合って、子どもの心を感じながら、親子で会話することから始めてみませんか。

つながりの大切さ

子どもたちは、集団の中で人と関わることで、コミュニケーションの力をつけていきます。少子化や核家族化等、子ども

たちを取り巻く環境や社会現象の変化により、子どもたちが関わる人間関係が限られてきていると言われます。子どもたちが人間関係を築いていく力をつけるためには、様々な体験を通して、多くの人と関わらせていきたいものです。

まず聞くことから

ある研修会で、話の聞き方による話し手の気持ちや体験してみました。

- ・視線を合わせずに聞く
- ・視線は合わせても無表情で聞く
- ・視線を合わせ、相づちを打ちながら聞く

聞く側の姿勢一つで話し手の受け取る気持ちの違いがわかりました。

さらに、研修会では次のようなことを学びました。子どもが話したい時、例え、迷っていることがある時には、子どもに思っていること、感じて



とまどす

私が子どもの頃は、校庭や公園、河原などでよく遊んだ。弟や妹を連れて来る子どもたちが皆一緒に遊んだ。喧嘩をしても、助け合い、仲良く遊び、子ども同士で解決し、いつの間にか仲良く遊んでいた。いろいろな遊びの中で、それぞれのいい面、苦手を認め合っていた。子ども同士で遊ぶことが人間関係について、自然と学び場になっていったのだと思う。しかし、子どもたちを取り巻く環

子どもの思いに耳を傾けて

子どもたちの、自分で考える力や、人と関わる力を育てるには、まずは「家庭」です。子どもがどうしたらいいのかわからない時や、何も言えない時には無理矢理聞き出すのではなく、子どもが親の指示や命令で動くのではなく、子どもが親の思いに耳を傾けてみましょう。

子どもとぶつかり合った時

- 1 「どんなことがいやだったの」
- 2 「そのことは、どんな感じがしたの」
- 3 「どんなことが不満なの」
- 4 「(親に) どうして欲しいの」

子どもが自分で考え、答えを見つけられるように問いかけましょう。

- 1 「どうしたいの(どうなりたいの)」
- 2 「十段の階段にたとえたら今何段目にいるの」
- 3 「何があれば(どうすれば) 一歩進めるの」
- 4 「それいいね、やってみよう」

※親は笑顔で共感し、受け入れ肯定しましょう。答えを急いで求めずに待ってあげましょう。

CONTENTS

22年度定期総会 2面

新日会長語る 3面

単P訪問 4面

勝野前会長が「PTA活動への思い」を、今井新会長が「抱負と願い」を語ります。

北信・東信・中信・南信の小中学校から、独自のPTA活動を紹介します。



地域との連携 (部活と社会体育)

私の息子の学校は、全校で40人程の小さな学校です。息子は部活動でバレーボールをやっており、部員が少なくチームとしての活動が困難になってきています。そんな中で子どもたちは、地区大会、ブロック大会を突破し県大会出場を目指し、毎日練習をしています。

子どもたちの頑張る姿を見て、親も勝つてほしい、勝たせてあげたいと思うようになり、練習ができること、例えば、子どもの送迎、球拾い、応援(声かけ)くらいで動を補う力強いサポートをして頂けるのが、地域の方である社会体育としての指導者です。通常のコーチから始まり、練習試合の相手、球拾い等々一生懸命子ども達の面倒を見て下さります。本当に頭が下がります。本気で頑張ります。

チャーリー西村の ワウワウクイズ実験室

テレビや雑誌などでおなじみの米村でんじろう先生の一番弟子「チャーリー西村」が、今回はサイエンスクイズショーにチャレンジします!おもしろくて不思議がいっぱいのクイズショー、みんな答えられるかな?

抽選で **無料** ご招待!

期日	時間	会場	参加人数
10/9	14:00-18:30 (開場/13:30)	上田市民会館 上田二の丸1-2	800名
10/10	14:00-18:30 (開場/13:30)	長野県伊那文化会館 伊那市民会館5776	800名

＜対象者＞小学生とその保護者 ※年齢制限はありません。

申込方法
○インターネットの申込書<http://www.chuder.co.jp/>
中部電力のホームページ「イベント開催」からお申し込みください。

○ハガキの申込
①申込期間 ②申込人数(大人10名、小人10名 ※計20名まで) ③申込番号住所
④代金振込先(フリガナ) ⑤電話番号 ※申込のうえ、下記までお申し込みください。
〒480-6790 名古屋市中区東区「チャーリー西村」K係

申込締切
平成22年9月15日(ハガキの受付は当日まで)

※お申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。抽選の結果は、申込日の3週間前までに電話でお知らせさせていただきます。

お問い合わせ先 中部電力長野支店 総務課 広報グループ ☎026-232-9000

平成22年度 定期総会

家庭・学校・地域の三者一体で



視察を述べる荒瀬県教育次長

県PTA連合会は、五月二十八日信濃教育会館において、平成二十二年定期総会を開催した。県内十六郡市代議員出席のもと、会長に今井仁志氏が選任され、新役員とともにさらなるPTA活動の活性化を目指し、新たなスタートをきった。

冒頭の挨拶で勝家副会長は「めまぐるしいスピードで情報化社会は変化している。価値観、教育環境、社会環境も多様化しており、そうした高速化に保護者も子供も対応できていない」との現状認識を示した上で「家庭・学校・地域の三者が一体となって子供たちを育て上げる事が必要である」と述べ、地域と家庭の役割を強調した。同時に「家庭教育力が低下している中で、その力をいかに高めるかが喫緊の課題である」とも語った。

PTA役員への役割については「家庭・学校・地域のパイプ役に徹すること」と述べ、あらためてPTA憲章「親のゆびきりげんまん」の重要性にふれるとともに、推進への理解と協力を求めた。

来賓祝辞で荒瀬重徳県教育次長は「学校教育は様々な課題に直面しており、時代の変化に的確に対応した教育の推進と充実が求められている」とした上で、県教育委員会では県教育振興基本計画をもとに「将来の担い手である子どもたちの伸びる力を一層伸ばす取り組みを大切に施策を推進したい」と述べた。

また「多様化する課題の解決には、子供の誕生から幼保・小・中・高校

共通研究テーマ「家庭が原点」

家庭の中でしっかり子どもと向き合おう

PTA憲章

「親のゆびきりげんまん」

子どもたちの健やかな成長を願って長野県PTA連合会が平成20年度制定した。

より良い子育てのための3つの行動目標

1. 家庭の中でしっかり子どもと向き合おう
2. 積極的に学校に顔を出そう
3. 地域に感謝し、地域で子どもたちを育てよう

第20回長野県小・中学校PTA広報紙コンクール

今年度は、92校（小学校70校、中学校22校）の応募があり、審査の結果14校が入賞の栄に輝いた。
 （☆が全国小・中学校PTA広報紙コンクールに推薦された）



- （佳作）
- 長野市松代小学校P
 - 長野市徳間小学校P
 - 御代田町
 - 御代田南小学校P
 - 長野市吉田小学校P
 - 松本市信明中学校P

- （優良賞）
- ☆池田町池田小学校P
 - ☆松本市鎌田小学校P
 - ☆駒ヶ根市赤穂小学校P
 - ☆飯田市旭ヶ丘中学校P
 - ☆松本市鎌田中学校P

- （最優秀賞）
- ☆東御市田中小学校P
 - ☆日本グラフィックサービス工業会長野支部長賞
 - ☆佐久市岩村田小学校P
 - ☆長野県PTA連合会長賞
 - ☆松本市旭町中学校P

- （最優秀賞）
- ☆飯田市伊賀良小学校P
 - ☆長野県教育委員会賞
 - ☆飯田市伊賀良小学校P

- （最優秀賞）
- ☆信濃毎日新聞社賞
 - ☆東御市田中小学校P
 - ☆日本グラフィックサービス工業会長野支部長賞
 - ☆佐久市岩村田小学校P
 - ☆長野県PTA連合会長賞
 - ☆松本市旭町中学校P

- （最優秀賞）
- ☆飯田市伊賀良小学校P
 - ☆長野県教育委員会賞
 - ☆飯田市伊賀良小学校P

長野県PTA連合会 会長表彰受賞者

春日 義幸 (全佐)	佐々木 太郎 (全佐)	井出 雅子 (全佐)	北澤 陽司 (全佐)	堀田 美和 (全佐)	長井 久美子 (全佐)	坂本 乃里子 (全佐)	水野 れい子 (諏)	有賀 優 (上伊)	上村 知恵美 (上伊)	榎田 有子 (飯)	田口 俊久 (飯)	田口 和永 (飯)	宮下 明 (筑)	福山 真太郎 (筑)	溝口 浩 (安野)	勝家 清 (安野)	工藤 哲秀 (安野)	中山 和夫 (天)	久保田 毅 (松本)	上條 奈余 (松本市)	榎田 秀一 (上高)	高島 達司 (中)	野口 博文 (中)	宮本 洋一 (上水)	久遠 峯志 (上水)	清水 映子 (上水)	大庭 和彦 (飯)	松本 孝之 (長野)	手塚 志憲 (長野)	福 明洋 (長野)	中島 敏 (教師幹事)	松木 英文 (教師幹事)	中村 豊 (教師幹事)	小林 洋子 (母親幹事)	小林 恵子 (母親幹事)	黒岩 清美 (母親幹事)	小山 陽子 (母親幹事)	柳澤 勉 (副編集委員長)	藤田 和子 (編集委員)	西城 薫 (編集委員)	竹内 久子 (互助委員会書記)
------------	-------------	------------	------------	------------	-------------	-------------	------------	-----------	-------------	-----------	-----------	-----------	----------	------------	-----------	-----------	------------	-----------	------------	-------------	------------	-----------	-----------	------------	------------	------------	-----------	------------	------------	-----------	-------------	--------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	--------------	-------------	-----------------

までの縦のつながりと、学校・家庭・地域・企業等、横のつながりを強化する事が何よりも重要である」との考えを示した。

続いて祝辞を述べた信濃教育会の宮本経祥会長は「子供は遊ばなければいけない。遊ぶことが勉強に生きてくるし、様々な体験を通して心が豊かになるという関係ができてくる」として、家族関係や友達関係を深め、生活力をつけるためにも、横のつながりが大切であると述べた。

引き続き、第二〇回県小・中学校PTA広報紙コンクール入賞作品の表彰をほさんで、山崎弘道代議員(長野市P)の進行

で議事に入った。前年度の事業報告及び決算報告、本年度役員の出立、事業計画案及び予算案についての質疑応答が交わされ、それぞれが決議・承認された。

新役員を代表して挨拶した今井仁志新会長は「副会長、幹事、皆さんの支えを受けながら精いっぱい努めてまいります」と就任の抱負を語った。

各審査員による講評

〇限られた紙面を有効に使うには、企画が一番重要である。広報委員が前例にとらわれず、現在話題となっている問題点をどれだけ探求し発信していくか。紙面のレイアウト、見出しは、デザイナーがある程度カバーできるが、内容については広報委員に任されている。

〇企画をしっかり練って、手をかけ時間をかけた特集記事は読ませる力があった。「読みたい」と思わせるには、レイアウトと見出しが重要である。上位入賞の広報紙を参考に、研究してほしい。

〇各校工夫されており、広報委員の努力が十分感じられる紙面が多かった。保護者に関心の高い問題を取り上げているPTAもあり、子育てに悩む親にとって、励みになる特集もあった。

大切なお子さまのための保険です

PTA小・中学生総合補償制度



ケガをした

通院1日目から補償

ケガをさせた

迅速に大ケガをさせてしまった

病気で入院した

1日帰り入院から補償

- 〇24時間いつでもどこでも補償します
- 〇個別加入に比べお得です（団体制度のため約43%割引されます）
- 〇保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております

長野県PTA連合会が
 平成10年より導入している制度です。
 詳しい補償内容については
 学校都市のパンフレットをご覧ください

制度引受会社：共栄火災海上保険株式会社 〇お問合せ：小中学生総合補償制度担当係
 電話：026(234)2180

家庭が原点『わが子が原点』

前会長 勝家 満氏

息子の成長を見ていた。娘が頑張っている姿を応援したい。そんな思いだけで、今日までわが子と一緒に成長させていた。いただきました。

私もおかげさまでPTAの役員として、非常に充実した5年間を過ごすことができました。単位PTAから始まり、郡市P、県P、日Pと、それぞれの立場でやるべきことがあり、その役割を理解しながら、私の思いを持って実践してまいりました。

子育てに決まりごとはありません。あるのは、

個々の親の考え方やついで。わが子をどのようになんかで見守るのか。子育てとは、親が本当の意味で世間に認められた大人になるためのもつとも重要な役目であり、子どもと親が一緒に喜怒哀楽を分かち合うことにより、共に成長することではないでしょうか。

役員を務めさせていだだいたおかげで、多くの方と知り合つてことができ、そこから今までにない幅広い知識や経験を得ることができました。これを大変にありがたく思いません。これから、役員として

活躍される機会に恵まれた方々は、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思えます。必ずや、何ものにも替えがたいものを得ることができるよう。

結びにPTA生活の最後の節目に当たり、今まで一緒に活動しご協力下さった皆様へ心より感謝申し上げます。また、わが子がいたから得がたい経験を積むことができたことにも感謝したいと思います。

みなさんも少しでもいいのです。わが子をしっかりと見つめ直してみませんか。その思いから始めるPTA活動は、充実したものであるに違いないと思えます。

新回を語る



力強い握手を交わす勝家前会長（左）と今井新会長（右）

PTAは子どもを育てる土壌を

新会長 今井 仁志氏

長野県PTA連合会では、昨年度に引き続き「家庭が原点」というテーマで、子どもと向き合おう、を共通研究テーマとして掲げて活動を進めさせていた。ことになり、次代を担う子どもを育て、最も根本的に重要な場であるといえます。そして、子どもたちがやがて地域社会を支えていく立場になることを考えた時

「家庭が原点」とは、実質的に大きなテーマであるように思われます。また、子どもと向き合おう、というテーマには、しっかりと子育てに取り組み、かつ息を抜くことも必要なのかもしれません。親の心の安定が、温かな家庭の雰囲気を生み出して、子どもを育てることに繋がります。

子どもを育てる土壌として、長野県PTA連合会では、①家庭の学校②地域の三つをあげています。P

平成22年度 委員会活動

委員長の抱負と主な事業計画



総務

渡邊 務委員長 (上田市立第二中学校P)

地域を意識したPTA活動で、明るい社会作り貢献し共に成長できるためのきっかけ作りをしたい。

- 県P研究大会の企画と運営
- 会則・規約等と財政的諸問題に対する対応
- 郡市Pの編成と県P組織の見直し



父親・母親

岡田 英恵委員長 (松本市立本郷小学校P)

郡市PTA母親委員会とのつながりを大切にしながら、共通テーマの研究を含め、有意義な活動を進めてまいります。

- 郡市P母親委員長会の企画・運営
- 「陽だまり」の編集発行
- 共通研究テーマに沿った研究協議の推進



郡市P・単P

山下 卓也委員長 (松本市立中央中学校P)

家庭教育協力企業推進制度を長野県でも実施できるように調査研究を重ね、関係機関へ働きかけをしていきたいと思えます。みなさんの御協力をお願いします。

- 郡市P・単Pの状況把握と組織編成についての検討
- 郡市Pの委員会活動の支援
- 単P役員研修会の企画・運営



広報

萩原 公和委員長 (松本市立小山小学校P)

正確な情報の提供とPTA活動がより身近に感じることが出来る広報活動をめざしたい。

- 県PTA新聞の発行
- 「よりよいPTA活動をめざして」の編集発行
- PTA広報紙コンクールの企画・審査と広報紙づくり研修会の支援



教育問題

岡田 信一委員長 (松本市立松田中学校P)

教育懇談会の内容や研究課題について、関係諸機関・他団体との連携を図りながら広く会員に情報発信していきたい。

- 国や県・郡市町村の教育改革に関する研究と対応
- 子どもの安全確保・有害環境の浄化に関する取組



安全互助

勝家 満委員長 (顧問)

地域の宝である子どもたちを支えるPTA会員を創面的に補助する安全互助の思いを繋ぐよう努めてまいります。

- 積立金による書画見舞金・贈答見舞金・特例見舞金の給付
- 安全意識の高揚、安全講習会の開催

平成22年度 長野県PTA連合会役職員名簿

顧問	勝家 満 (北信母親)	山本 桂子 (北信母親)
会長	今井 仁志 (東信)	小山 恵里香 (教師)
副会長	渡邊 務 (南信)	小柳 廣幸 (教師)
	山下 卓也 (中信)	市川 文夫 (北信)
	岡沢 信一 (北信)	今井 晃 (北信)
	萩原 公和 (母親)	寺島 匡彦 (母親)
	岡田 英恵 (教師)	宮下 光夫 (母親)
	岩月 正一 (教師)	藤松 昭彦 (母親)
専務理事	毛道二三男 (父親)	原 義和 (母親)
監事	諏訪 幸正 (母親)	島山 信重 (母親)
	関 ひとみ (教師)	赤羽 聡 (母親)
	若林 学 (全佐)	神津 利信 (母親)
理事	沼田 浩人 (更埴)	森 大実 (母親)
	池上 浩 (諏訪)	大内 徹 (母親)
	柿澤 輝幸 (上伊那)	西澤真利子 (母親)
	唐木 純哉 (木曾)	宮下しげみ (母親)
	櫻井 親一 (塩簗)	林 初代 (母親)
	塩原 康規 (安曇野市)	待井 昌位 (母親)
	安藤 哲也 (大北)	羽生田えみ子 (母親)
	白澤 良次 (中高)	小笠原幹夫 (母親)
	河野 幸弘 (上水内)	古川 律子 (母親)
	小林 義之 (飯水)	池上 敬子 (母親)
	堀内 隆夫 (長野市)	木内 京子 (母親)
	山崎 弘道 (東信母親)	伊東 貴世 (母親)
	山浦さとみ (南信母親)	柳澤 真美 (母親)
	南沢 好恵 (南信母親)	勝家 満 (顧問)
	笹岡 薫 (南信母親)	西村 健治 (書記)
	伊東 由佳 (中信母親)	中澤香代子 (書記(互))
	片瀬はつみ (中信母親)	宮川さやか (書記(互))
	鈴木 仁美 (中信母親)	

単位PTA訪問

北から、南から

No.68

真・練・如

松本市の北端に位置し、5年前までは旧四賀村の中学校として歩んできた。生徒数170名ほどの小規模校ではあるが、緑と文化とスポーツの量をキャッチフレーズに、自主の精神を持った心豊かな人間作りを目指している。

冬の間にはクヌギの木を切り出し、苺の原木を作っていた。毎年行われているPTA作業の日に合わせて保護者、先生、生徒が一緒に頑張って苺の打



親子ボレボレ講座での苺製作り

学校裏の学有林を活用した里山整備学習を通じた活動が出来ないかと提案された。幸い役員の中に林業経験が豊富な方がおり平成二十年頃から「PTAの日」として実施する事となった。

平成二十一年度には、前年に学有林から切り出された木材等を利用して、木工教室、蒸製作りなど、地域の方々と講師に招いてのボレボレ講座を実施した。また、昨年打ち込んだ原木からは、くが収穫され、



松本市 会田中学校



給食の材料として利用することができた。これからは里山学習を通して、自然の素晴らしさや、昔から伝わる知恵や技を学ぶとともに、このふる里の一員としてそれらを表現し発信できる、心豊かな大人へと育てて欲しいと願っている。

(文)百田 卓史

学校・家庭・地域の「和合」を大切に

古里小学校は明治22年開校。長野市の北部、浅川のほとりに位置し、りんご畑など豊かな自然環境のなか642名の児童が学ぶ。



長野市 古里小学校



親子マスコみ大会 親子そらあつての時間を過ごしてもらおうと、会館同士のコミュニケーションを図ることを目的に、毎年恒例になった親子マスコみ大会を、本年もブルー清掃に併せて行う。ブルーの水を少なくし、低学年、高学年別に手づかみでニジマスをつかまえるもので、お父さんスタッフによる「ニジマスの塩焼き」、お母さん役員が作る「とん汁」は、ブルー清掃で冷えた子どもたちの体を温めてくれる。ニジマスを食べるだけでなく、人間は他の生物の命をいたたくことで生かされている話



お父さんスタッフによるニジマスの塩焼き



親子マスコみ大会

使われることから、今後も会員の力を合わせ実施していく。(文)藤原美佐男

資源回収

早期から、新聞等の古紙、ダンボール、ビール・酒ビン、アルミ缶等を地区ごとに回収し、校庭に収集する。春の資源回収のほか、秋は資源回収とバザーを隔年で行っている。春は地域の方々のご理解とご協力をいただき、教育振興会を中心にマーチングバンドの保護者や専門部、会員の皆さまにより無事終了した。子どもたちの学校生活の充実・向上のために、楽器購入・図書購入補助、校舎内外の整備に

「立場の流れ釜無に 交わるところ落合の…」

富士見町の南部、八ヶ岳よりいする立場川と遠く眺める霊峰富士に向かい流れる釜無川が交わる谷あい位置し、創立137周年を迎えた。「開業編(きそどく)」を学校教育目標に35名の児童が学ぶ。



富士見町 落合小学校



落合の朝は「落合あいアイ運動」で始まる。子どもたちの登校開始を知らせる有線放送が流れると、各々の家の前を通る子どもたちに地域住民が「おはよう」と声をかける。「あいアイ」とは、落合の「あい」挨拶の「あい」愛するの「あい」(出会)逢いの「あい」と子どもたちを見守る眼「(EYE)」の「アイ」という意味である。地域住民が子どもたち一人ひとりに声をかけられる小規模校の良さが落合にはある。家庭数二十九軒とい



PTA作業

また、町Pが主体となつて毎年通学路視察が行われており、単Pの要望により通学路の改善が図られている。

迫りくる閉校 そんな落合小だが、児童数の大幅な減少により、平成二十三年度末をもって閉校という方針が出されている。創立百四十年を目前に、伝統ある学校、伝統あるPTA活動に終止符を打つときが迫っている。しかし、地域住民も一体となつて地域の学校を支える気持ちは、閉校となつてもこの先ずっと続くものと確信している。(文)中山 澄男

信濃国分寺に守られて

平成11年4月に信濃国分寺近くに移転・新築し、学校目標である「体力・気力・知力を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成」を目指し、585名の生徒が自然豊かな環境のなかで学んでいる。



上田市 第一中学校



父親協力会 平成十五年からは活動を開始した父親協力会。普段忙しいお父さんが「できる範囲」でPTA活動に参加し、「おやじもたまには学校へ行くぞー」という父親のネットワーク・サークルである。子供たちの学び舎に触れ、先生方とひざを交えて語り、父親同士の人脉を「懇親会」で築き上げる。結成式 まずは学校の見学。あまり来る機会がないので、自分の子供の机を見るだけで感動。その後、年間活動決定の、校長先生、教頭先生、PTA作業・安全パトロール PTA作業は、PTA作業では、PTA作業の出動、砂上げや植樹など、力仕事や



PTAコーラス

夜は場所を移して懇親会、父親にとつてはこういう場がとて重要である。PTAコーラス 学園祭の合唱コンクールにPTA合唱三部合唱が登場する。昨年(2010年)の「キセキ」で参加。お父さん方の参加も含め総勢約七十名、とても盛大であった。(文)丸山 勝也

高いところでの作業に威力を発揮する。また、お昼休みや冬休みの間、学校の安全パトロールを実施している。

編集後記

三歳の娘にせがまれて、近所にある滑り台で遊んだ。その滑り台に、ふと西の山を見たら、そこには美しい夕焼け空があった。私は、立ち止まって「さようなら。また明日会おうねって、お日様が言うてるよ」と、娘に語りかけた。娘は、にこりと笑い「きれいな夕焼け空、はいはいまたね」と、言った。その言葉を聞きながら、娘と同じ視線で見上げた夕焼け空は、とても新鮮であった。娘が生まれた日も、夕焼けが美しくかった。息子たちと病院から帰りに着いた時「見てごらん」と、私は、晩夏の夕空を指さした。空を見上げた息子たちは「おわあ、すごい」と、思わず歓声を上げた。目をまん丸にして、夕焼けを見つめていた息子たちの姿は、今でも強く印象に残っている。わが子と一緒に過ごす時間は、子どもが成長するにつれて少なくなるものである。しかし、自然が与えてくれる様々な美しさに気づき、子どもと感動を共有することは、いつまでも大事にしたいものだと思う。(S・A)

Advertisement for Shinshu Milk featuring a group of people holding a sign that says '信州の牛乳' (Shinshu Milk) and 'MADE IN SHINSHU'.